



飛
翠
景

大
藏
省

疾人財產處分法方書

1660



414
A2531

番
言
言

大
正
十
一
年
四
月

叛人財産処分方法方書



セラレケル疑問ノ諸件ニ付キ今爰ニ書

ヲ以テ答辨スル所ノモノハ左ノ三條ニ係レリ

(千八百七十七年四月二十四日付々北村民ノ書

翰ヲ参着スベシ)

第一条 政府ニ於テ叛人ノ財産(動産不動産

ヲ併セラ)ヲ籍没スル方法

第二条 叛乱平定後財産処分ノ方法

第三条 叛人ノ財産ヲ籍没スルノ主旨素ト

其罪ヲ懲罰スル為メナルカ或ハ政府ノ軍

大正十一年四月
大正十一年四月
大正十一年四月
大正十一年四月

飛
騾
録

大
藏
省

責ノ賠贖センカ為メナルカ抑モ叛人嘯集
地方人民ノ被メリタル損害ヲ賠償センカ
為メナルカノ事

右等ノ件々ニ付テ西洋各國ノ法律及ヒ慣習
如何ヲ探究シ政府ノ顧問ニ供セシメテ余ニ
希望セラレリ(北村氏ヲ經テ)

第二条ノ疑問ハ特ニ平定後ニ関ルモノナル
ヲ以テ觀シハ第一条ハ言ヲ煩タスニテ戦争
中ニ係ルモノナラント考定シ順次ニ三ヶ條
ニ付キ論述セントス然レテ第三條ノ趣意ノ

如キハ或ハ第一第二ノ兩條ニ交渉スルアル
ヲ以テ偶々兵論說中ニ混合シ述フル所モ亦
少ナカラザルヘシ

第一章

戦闘間財産處分ノ方法 人民ノ政府ニ抗敵シ

テ兵ヲ擧グルヲ叛逆トス而シテ其乱漸ク大ニ
シテ之ヲ目シテ内乱トナスニ至ルニ及テハ余
ハ現今ノ西陲叛乱ノ如キハ内乱ト思考スルナ
リ(政府ガ此叛人ニ對スルノ権理ハ譬ハ外敵
ニ對スルト一般ナリ叛逆人ハ即チ國家ノ寇敵

ナレバ、レニ對スル猶ホ外敵ニ對スルガ如ク
 スルヲ應當トス（爰ニ尤モ注心スベキ一事アリ
 則チ政府ヲ殺入ニ對スル権理ニ戰鬪間ト後ト
 ノ別アリテ前ニ外敵視セシ殺入モ後ニハ國民
 視セザルベカラザルト是レナリ）然レモ能ク其
 本源ヲ釋思スレハ是レ純然タル外敵ニアラズ
 シテ内寇ナレバ徒ニ外敵トノニ決視シテ其内
 寇タルノ實ヲ失ナルガラントテ要ス
 財産所在地方ノ限界及ヒ所有物公私ノ區別ノ
 如キハ余ニ屬セラレタル疑問中之レニ及バザ

ルガ故ニ余ニ公私所有物ノ區別ヲ立テ、左
 ニ論述セン

甲 叛地ニ於ケル公私所有物ノ事

乙 他ノ地方ニ於ケル公私所有物ノ事

甲

叛地ニ於ケル公有不動産ノ事 叛人嘯集ノ地ニ

於ケル公有地及ヒ其他公有不動産戰鬪間ニ官

軍ノ占有ニ歸セバ占有者ハ之ヲ恣ニ使用シ且

ツ之ニ附着シ或ハ之ニ出ル所ノ権理利

益例ハ、賦地料諸稅其他ノ如シヲ取リ自ラ利

スルノ權ヲ有ス

私有不動産ノ事

私有地又ハ私有不動産ニシ

テ古ト同一ノ場合ニ於ケルハ其占有者ハ何物

ヲモ分タス猥リニ取押ヘ得ルノ權ナシトモモ

戦闘ノ為ニ必須ノ場合ニ在テハ之ヲ使用シ

之レニ臨時ノ税及ヒ軍需ヲ賦課スルヲ得且ツ

我レニ必須ナラザルモ若シ置テ顧ミザレバ却

テ敵ノ利用ニ歸セントスルノ場合ニ於テハ之

ヲ勝手ニ取押ユルヲ得ベシ

叛地ニ於ケル土地ノ所有主其土地ヲ委棄シテ

逆徒ニ黨與シ其兵士トナリ若シクハ其他ノ役

ヲ執ルノ場合ニ在リテハ其土地(戰場ニ接近セ

ガル場所ナレバ)ハ政府ノ命ヲ受ケ諛件ヲ理治

スル官吏假リニ之ヲ取押ハ戦闘止マサルノ間

ハ暫ク之ヲ他人ニ貸与シテ耕作セシメ其益ヲ收メテ

得ベシ但シ斯レ時期中共収ムル所ハ賦地料ハ

政府ノ歳入タルナリ而シテ此場合ニ於テハ政府

ハカノ及フ丈ケ周密ニ注意シ其地住居ノ農夫

及ニ其他ノ不戦者ヲシテ各々其職業ニ安着セ

シテガレハカラズ獨リ土地ニ限ラス他ノ不動

産トモ官兵ハ取押ユル所トナリタルカ若シ
 クハ委棄サレタルハ亦其任ヲ負擔スル官吏ノ
 之ヲ管轄スルニ於テ妨ケナシトス
 公有動産ノ事 敵地ニ存在セル公有動産ハ我
 レニ於テ之ヲ占有セバ我有トナス十分ノ權ア
 リ而シテ之レニ附着シ及ヒ之レヨリ出ル所ノ
 權利利益ノ如キモ若シ占有ノ時期中實ニ其原
 物我有ニ歸セシキハ之ヲ使用スルノ權アリ然
 レハ此權利ノ如キハ内乱ノ場合ニ於テ縱ヒ
 用フルトアルモ濫ニセガラシトテ要ス

私有動産ノ事 抗敵セル地方ヲ占有スルニ當リ
 私有動産ヲ取押ヘルハ制規ニ於テ正當ノ所置
 トナス蓋シ此ノ制規ノ因テ未ル原ヲ探究スル
 ニ條理ト慈仁ノ兩者ニ基ツクナリ何トナレハ
 動産ノ如キハ其種類ノ無数ナル殆下枚挙ニ遑
 アラザル程ニテ其内或ハ純乎タル自用品ニシ
 テ又クベカラサルアリ或ハ單ニ高賣物ナルモ
 アレハ其種類ヲ區別セシテ甚々容易ナラス而
 シテ之ヲ要スルニ斯ル動産ノ内不戦者及ヒ動
 物ノ生命維持ニ欠クベカラサルモノ其多キニ

居リ又不戦者ノ家屋ニ乱入レ猥リニ分捕ヲナ
 ス等ノ害ノ如キハ須ク注心憂慮セサルベカラ
 サル所ナレハナリ是等及ヒ類似ノ他ノ事情ハ
 遂ニ萬國一般ノ主義トナリ右ニ述ヘタルカ如
 キ制規ヲ起成スルニ至レリ
 之レニ及レテ敵地ヲ占有セレ戦隊ノ指令官ハ
 其地所在動産ノ直ニ敵ノ軍用トナルベキカ或
 ハ敵ノ有ニ歸セントスル場合ニ在リテハ私有
 物ト雖氏之ヲ取押ユルモ不公正トナサヌ又畜産
 食用品被服等ノ如キ必用ノ軍需ハ何物ヲ問ハ

ス勝手ニ之ヲ取リ以テ使用ニ供スルヲ得ベレ
 ○無事ノ所有主ヲレテ納メタル軍需ノ償
 金ヲ拂フハ即時ニ於テスルモ後日ニ於テスル
 モ後日ニ於テセントスルモ納メタル軍
 需品ノ領収書ヲ付与ス又拂ハサルモ自ラ其國
 ノ政略ニ在リ斯ル賠償ヲナスハ近時歐洲各國
 一般ノ制規トナレリ蓋シ此法ノ因リ原ク所ノ
 理ハ戦闘ヲ開クノ主義ハ抗敵セル政府ヲ兵カ
 ヲ以テ抑制セントスルノミニシテ決シテ其
 國人民ト兵ヲ交ユニ非サルナリ然レ氏内乱

ノ場合ニ於テハ、ガク迄レト事ヲ同フセサル
 所アリ、逆徒ガ所有スルモノ、外無事ノ良民ニ
 属スル動産ハ非常已ムヲ得ナル必需ノ品ニ非
 レバ決シテ手ヲ觸ル、ヲ得ス若シ已ムヲ得ス
 シテ手ヲ觸ル、トアルハ十分ノ賠償ヲナサ
 ザルベカラス何トナレバ然ラズンバ無事ノ良
 民ノ困難太甚シカルベケレバナリ且ツ叛人ト
 兵ヲ接ユルニ當リ政府カ目的ノ要ハカノ及フ
 丈ク民心ヲ官軍ニ偏向セシムルニ在レシ須ラ
 ク人民ノ良心ヲ發起セシムルヲ勉ムベシ

然レ氏占有ノ勢力ハ必用ノ場合ニ於テハ其占
 據セル地方所在ノ私有動産ニ直接間ヲ開ハス
 軍用ニ充ツベキ(軍資軍需ヲ賦課スルヲ得可シ
 ト) 虽氏軍隊ニテモ政府ニテモ實ニ斯ル條理ヲ
 有スルニ非ス唯々軍略上ニ要スル所ノモノハ
 ミヲ收取シ且ツ使用スルヲ得ルニシテ兵士カ
 一己ノ私利ノ為メニ分捕ヲナスニ至テハ勿論
 非理不正事ナルヲ常ニ銘心シ遺忘セザルヲ要
 ス凡リ戰場ニ於テ分捕セシ動産ハ悉皆政府ニ
 属シテ一私ノ分捕者或ハ其軍隊ニ属セザルモ

ナレバ何品ヲ問ハス兵士ノ分捕セシモノノ
之ヲ其長官ニ呈シ長官之ヲ政府ニ納ムルベ
カラズ

乙

叛地外ニ在ル公有物ノ事 叛地外ニ在ル公有
物ニ付テ爰ニ論述スルハ恐ラクハ無益ニ屬セ
シ何トナレバ公有物ノ該地方外ニ存在スルノ
謂ヒナレト考定スレバナリ

私有物ノ事 敵國人民ノ私有物動産不動産ヲ

論セス帝國內ノ他部ニ在ルハ之ヲ取押スルハ
萬國公法中ノ規則ノ許ス所ナレ氏近世ヲ於テ
ハ萬國ノ善良ナル風習ニ因テ一般ニ此規則ヲ
廢棄セリ然レ氏内乱ニ於テ其財産所有主ノ叛
跡顯然タルニ於テハ彼ノ萬國ノ善良ナル風俗
ヲ捨テ、公法ノ嚴ナル規則ヲ取レリ
動産ノ事 前述ノ外何物ヲ問ハス動産性質ノ
モノニシテ叛人ノ使用ニ決セルモノハ政府ハ
法律上ニ於テ之ヲ取押ヘ得ル權ヲ有シ加之此
權カハ獨リコ、ニ止マラス之レヲ取押ヘル

時ニハ未ケ叛人ノ手ニ交付シタルニアラサカ
モ必ス其手中ニ入ラント假定カレ所ノ物
ニモ及ボスヲ得ルナリ

但シ右ノ論ハ(此書所論ノ主意外ナル)中立
國カ敵ニ供給セル軍需ニ付テノ論ト異
ナレリ中立國カ敵ニ軍需ヲ供給セル場合
ニ於テハ只萬國公法中ニ禁スル所ノ軍用
品ノミヲ取押ユルヲ得ルナリ

此外他ノ地方ニ於ケル王民叛人嘯集地方ニ於ケル人民或ハ其地方ト
交易ヲナスルハ(其免許ヲ得シニ非サレバ)其貨物ヲ叛地ノ何レノ

部分ニ向ケテ輸送スルトモ其貨物ノ叛人ヲ扶
持スル直接或ハ間接ニ於テスルトニ係ハラス
悉ク之ヲ取押ユルヲ得然ル所以ハ之レガ為
ムニ西地人民間ノ交易トテ交際トテ不正ニナ
スノ憂虞アルガ故ナリ(此交易免許ヲ与フルト
若レ實際ニ行ルベクンバ之ヲ与ルヲ利アリト
ス其意戦乱ノ餘毒ヲシテ成ル大ケ少ク交易及
ニ其他ノ利益ニ被及セシメント欲スルナリ
不動産ノ事)叛人所有ノ不動産ノ叛人以外ニ
存在スルモノハ法ニ於テ戦争ノ権理ヲ以テ戦闘

問ニ之ヲ取押エルヲ得スト或氏之レヨリ生
 ル所ノモノ差シ取押ヘサレバ殺人ノ人持ト十
 ラバ之ヲ取押ヘ而ノ是レト均一ノ場合ニ於テ
 ル他ノ財産ノ如ク同様ニ處分スルトヲ得
 處分ノ法方）右ノ旨義ニ基ツキ總テ斯ノ如キ
 取押ヘノ正否ヲ判スルハ裁判所ノ任ナリ而シテ
 警察吏或ハ税関港、錦道等ノ官吏及ヒ（取押エベ
 キ十分確實ノ証迹アラバ）平民ノ報知ニ由リ斯
 ノ如キ財産ヲ取押ユルハ政府ノ命ヲ受ケ該事
 ヲ負擔スル官吏ノ任ナリ

第二章

叛亂平定後ニ於テハ曩キニ彼我相敵視シ逆凌
 タリ歎讐タリシモノモ今日ニ至テハ斯ノ如キ
 ノ情況全ク消滅地位各々從前ニ復歸スルヲ以
 テ曾テ先契不屈ナリシ頑民モ今ハ温良從順カ
 善民トシテ取扱ハザルベカラス故ニ是時ニ至
 リテハ政府ハ治平ノ時ニ於ケル法律ヲ以テ曼
 等人民ノ財産ヲ處分セザルベカラス
 余輩ハ是ニ於テ曩キニ殺人タリシニモ、財産
 ヲ處分スルニ政府ハ如何セル方法ヲ以テス

キヤ、探究セシ然ルニ之、探究スルニハ先ツ
 叛乱平定後ハ叛人一般ニ大赦ヲ布告スベキモ
 ノト、假想セザルベカラズ素ヨリ斯ル大赦ナル
 モノハ其重罪者ヲ除クノ外ハ其犯罪ノ大小輕
 重ニ隨テ之レヲ贖ナハシムルノ謂ヒナリ
 是故ニ政府ハ左ノ三條ノ如ク處分スルニ於テ
 妨ゲアルトナシ

第一 叛地一般ヲシテ公費ヲ賠償セシム

ル丁

第二 實ニ叛逆ヲナシ莫ニ叛人ヲ補助セ

シ人民ノ財産ニ償金ヲ課スル丁

第三 重罪或ハ他ノ事故ニ因テ一般ノ大

赦中ニ入ルヲ得スニテ亂彈ノ上ニ

テ叛逆ノ罪科ニ判決セシモノハ改

宥ニ於テ其財産ヲ以テ判決セシ罪

科ノ全分或ハ一部分ヲ贖ナハシメ

或ハ籍没スル丁ヲ得

(戦闘間ニ捕虜ニ就キ亂彈ノ上其

處分ニ中渡サレシ片ハ亦右ノ法

ニ同シ但シ叛人ノ捕虜ハ外款ヲ押

虜トナリシモノ、如キ取扱ハ得ルノ權ナシ

余ガ今此章ニ論述スル所ノモノ、右三ヶ條中ノ第三條ニ限リトス如何トナシバ第一條ニハ兩條ハ此書ノ第三章ニ於テ論述スルヲ緊要トスレハナリ但シ右三ヶ條中政府ニ於テ救恤人民ニ慮スルニ一ヲ用ヒバ餘ハ用フベカラズト云フニ非ズ盡ク用フルモ又唯一條ヲ用フルモ妨ダヤシトス

テ爰ニ始ニ一言セザルベカラザルヲアル諛叛人ニ其慶分ヲ申渡スハ政府ニ於テ設立セル合法裁判所蓋シ臨時裁判所ノ類ナリニ於テスルヲ例法トス此ノ例法ニ違フテ罰ヲ科スルハ近時ノ万国ノ法律及ヒ慣習ニ背反セルモノトナ捕虜ノ場合ニ於テモ亦同シ

政府ニ抗敵シテ兵ヲ攀タルノ罪ヲ又逆ノ罪ト云ヒ万国トモニ此罪ヲ以テ犯罪中最大至大ノモノトシ最モ嚴ナル贖罪、死刑或ハ終身禁錮ノ罰ニ處セリ然リ而メ財産没収法律及ヒ慣習

ハ往昔ヨリ今持ニ至リマテニ大ニ其沿革ヲ經
 タリ抑々往昔ハ叛逆ノ罪ヲ處分スルニ其財産
 ヲ残ス所ナク全没セシガ漸次ニ法律寛浩ニ歸
 向シ現今ニ至テハ財産ヲ全没スルハ不正事ト
 シ西部歐洲諸國ニ於テモ又米國ニ於テモ決シ
 テ此處分ヲ行フコトアルナシ
 現今英國ノ法律ニ於テハ叛人ヲ罰ニ處スルニ
 其財産ヲ籍没スルニ至ラス然レ氏其財産ハ政
 府ヨリ或人ニ命シテ該所有主ガ法律上ニ於テ
 之レヲ用フルコトヲ得ザルノ間左ノ方法ニ據テ

管理セシム

該財産ヨリ収入スル所ノモノヲ以テ管理
 者ヨリ仕拂ヒ得ルモノハ左ノ如シ

- 第一 裁判入費及ニ管理者ガ財産ヲ管
 理スルニ付キ要スル費用
- 第二 法律ニ適合セル負債ノ償却及ニ
 財産所有主負擔ノ義務
- 第三 犯罪人ガナセシ叛人ノ為メニ被
 ムリタル他ノ良民ノ財産ノ損害
 賠償ヲナスニ管理者ガ有限相當

ト考定スル高

第四 罰責ニ至ル間家族ノ扶持

右数件ノ仕拂ヲナセモ残餘ノ財産ハ管理者之
ヲ所有主ノ為メニ看護シ満期或ハ宥赦ヲ得ル
ノ後或ハ死後(其死ハ法律上ニ於テ叛逆首魁ノ
刑罰ニ蒙セラル、ニ因ルモ或ハ天然ノ命數ニ
因ルモ)ニ至リ之ヲ其本主或ハ代理人ニ還付ス
ルモノトス

犯罪人が從來政府ヨリ受ケシ養老金或ハ俵金
ノ如キ所有物ハ罪科申渡シノ共ニ滅没スル

モノトス又其罰責ニ在ル期限中ハ如何ナル官

職モ帶有スルヲ得ス是ノ故ニ罪科申渡シノキ

ニ至ルマテ保持セシ官職ハ此時直チニ滅スル

モノトシ又満期放免ニ至ルノ後再ヒ前官ニ復

スルヲ得ス然リト雖モ英國ノ法律ニ於テハ米

國ニ於ケル如ク再ヒ官職ニ即クヲ得サルニ

非ス

財産ヲ全没スルハ正理ニ因ルモ人萬國公法ニ

於テモ許サザル所ナリ余カ知ル所ニ據レハ

法律上ニ於テ叛逆ノ罪科ヲ申渡サレタル人ニ

課シテ其財産ノ一部分ヲ没収（叛人ノ罰トシテモ或ハ政府ヘノ償トシテモ）スルハ（若シ斯ル處分ヲナスヲ政略上ニ於テ便宜トサバ）政府ニ於テ之ヲ行フハ法律上ニ於テ決シテ不當トサズ

是レヨリ以下ハ余輩ヲシテ此書ノ末章ノ主意ニ論及セシム

第三章

此書ノ首端ニ掲載セシ如ク財産籍没ハ何ハ卷メニスルヤノ疑問ノ解ハ往々前章ニ於テ其大

略ヲ尽シタリ而シテ今復タ多言ヲ費スハ無用ニ属スベケレバ僅カニ二言ヲ畧述シ以テ前陳ノ不足ヲ補ハシノミ

戦争間ノ事

戦争間ニ所有物取押ノ事ニ付

テハ既ニ前章ニ論述セシ所ノモノヲ更ニ復タ略述スルノミヲ以テ緊要トス戦争間ニ敵地内ニ在ル所有物ヲ取押ユルハ實ニ籍没ノ所理ニ合スルニ非ガレバ軍ニ軍事上ノ策略ニ出ラ、姑ク假リニ軍律ニ拠リテ行フニテ決シテ民法ニ拠リテ行フニ非ス而シテ右ノ籍没ヲ行

フハ唯左ノ主意ニ於テスルヲ以テ其正ヲ得
リトス

第一 敵ノ勢カヲ養助スルノ源ヲ塞キ以テ
其カヲ殺ク

第二 軍隊ノ戰場ニ在リテ軍需ヲ豫備スル
ニ其占拠スル所トナリタル敵地ノ産
物ニ依ランガ為メニ占有ノ權利ヲ活
用スル但シ内亂ノ場合ニ在リテ此權
理ヲ用ヒバ無辜ノ人民ニ被及セシム
ザルヲ要ス

敵地外ニ在ル敵人ノ財産敵地外ニ在ル敵人ノ
財産ニテ彼レノ拠テ以テ軍需ヲ取ル所ノモノ
ヲ籍没スルハ右ノケ條ノ主意ニ基ヅカバ其正
ヲ得タリトス何トナレバ敵ノ財源ヲ壅塞セシ
メ而シテ我レ之ヲ取り自ラ富マスハ戦者ノ權
理ノ活動スル所トナレバナリ

右ノケ條中ニハ一モ懲罰ノ意ヲ見ス

戦闘平定後ノ一 平定後ニ於テ政府ガ処分ヲ
行フノ道三アリ

第一 叛地人民一般ヲシテ賠償ヲナサシムル

第二 叛地人民一部分ヲシテ賠償ヲナサシムル
 第三 叛人各自ノ罰金或ハ籍没ヲ命スル
 余ハ今籍没ノ主意ハ (甲)懲罰ノ為メナルカ (乙)軍
 費賠償ノ為メナルカ (丙)戦地人民ノ兵器賠償
 為メナルカノ疑問ニ答ヘシ此疑問ハ半法
 律半ハ政略ノ二途ニ涉レリトス。第三條
 分ノ意ノ歸スル所ハ一ニシテ止マラス。日本
 政府若シ余ガ証引セシ英國ノ法律(即チ此ノ譯
 書ノ十一葉ニ於ケル犯罪者ノ財産ノ中ヲ以テ被
 害人民ニ償ヲ給スルノ法)ニ齊シキ方法ヲ用ヒ

以テ叛逆ノ罪人ニ罰金或ハ籍没ヲ命ゼバ之ヨ
 リ出ツル所ノモノハ政府ノ軍費ト人民ノ損害
 トノ二途ノ賠償ニ供スルヲラント全ハ考案ス
 レヤリ
 第二條モ亦第三條ニ全シ 是レモ亦其歸スル
 所一ナラス何トナレハ斯ル罰金或ハ償金ヲ科ス
 ルハ一部分ハ懲罰トシテ後來ヲ謹戒セシムルニ
 在リ一部分ハ政府ノ費用ノ賠償トシ且ツ之ヲ
 以テ政府ニ戦地人民財産ノ損害ヲ償フヲ得
 セシムルニ在リ

〔第一章ハ言フベクシテ〕行テ難シ一般ニ叛地ノ
 人民及ヒ其財産ニ償金ヲ賦課スルヲ政府ニ於
 テ行テ得ヘキ処分ノ三ヶ条ノ一トシテ前掲セ
 リ然リト虽氏余ハ政界上ニ於テ必ス之ヲ行ハ
 ガルヘカラストシテ日本政府ニ勸諭スルニ非
 ス唯論理上ニ於テ行テ得ヘシト為ス所ナルヲ
 以テ之ヲ其一ニ充テタルノミナリ
 今筆ヲ此処ニ擱クニ臨テ一言ヲ要スルハ叛人
 ノ財産償金ノ賦課ヲ荷擔スルニ足リ且ツ政略
 上之ヲ課スルヲ便宜トナサバ其法適度ヲ得ル

ト苛酷ナラザルトテ上旨トスベシ 賦課金ノ限度
 ハ無辜ノ人民ガ被リシ兵害ト政府ノ軍費トヲ
 償却スルニ足ル丈ケニ止ルヲ可トス然レモ
 是レモ亦宜シク其所有財産ノ有様ヲ視察シ凍
 餓ノ慘状ニ陥ルノ不幸ニ至ラサラシムルヲ要
 ス而ノ法律上特トニ罪アルト認メラル、モノ
 ニ罰金或ハ籍没ヲ命スルモ亦右ニ全シク適度
 ノ方法ヲ用ヒザルベカラサルナリ
 以上ニ論述セル所ハ悉ク余カ持論ニシテ大ニ
 其正ヲ得且ノ現今西風ノ知分ニ於テ尤モ其當

番
言

大
雅